〔千葉医学　83：39，2007〕

〔編集後記〕

第83巻１号では，原著１編，症例報告１編，話題１編，２教室の例会記録，雑報１編が掲載されています。原著，症例報告共に英文です。過去数年の千葉医学会誌を振り返ってみると，原著，症例報告が共に英文で掲載されるのは意外に少ないことに気付きます。本号では総説・展望等の記事はありませんが，関根郁夫氏による雑報「新しいアイデアが求められている時代」は読み応えがあり，補って余りある号となりました。

原著論文は，千葉大学教育学部からの投稿で，医学の裾野の広がりを反映してのことだと思われますが，今後もこのような原著論文が本誌に多く投稿されることを期待したいと思います。

西村真樹氏の症例報告「Usefulness of Thumbtacks in Regulation for Massive Presacral Hemorrhage in Rectal Surgery: Report of a case」は，私自身が婦人科医であった時代に似た症例を経験したことから興味深く読まさせていただきました。多くの編集員が指摘しているように，症例報告は重要であり，本誌のバロメーターでもあると思います。

話題は，国際学会の学会賞を受賞された三澤園子氏の報告です。若い千葉医学会会員が国際学会の学会賞を受賞されたことは，千葉医学会の誇りでもあり，励みでもあります。気取ることなく書かれた三澤先生の受賞報告は臨場感にあふれ，受賞・発表の写真と共に楽しまさせて頂きました。

ところで，千葉医学雑誌もオンラインジャーナルの体裁を一応整え，検索等もできるようになってきました。もはや無いのは，オンライン投稿・オンラインレビューシステムくらいかもしれません。

振り返ってみると，ここ１～２年で，論文投稿のために論文を印刷して，チェックして，封筒に入れて送るということが殆ど無くなってしまいました。多くの雑誌が，オンライン投稿システムを整備したからです。更に，オンラインレビューの導入により，レビューも極めて速くなりました。初期のオンライン投稿システムは使い勝手も悪く，レビューのプロセスが従来通りであったため，紙で投稿した方がよっぽども楽だと思っていたのは昨日のことです。現在のオンライン投稿システムの多くは手軽でありレビューも速いので，最近では，オンライン投稿システムが整備されていない雑誌への投稿には，二の足を踏んでしまう程です。

先日，今まで投稿したことがない分野に論文を投稿することになり，どの雑誌に投稿したら良いかを調べていて気が付いたことが一つありました。インパクトファクター順に雑誌を並べて上から順に調べてみると，あるインパクトファクターよりも低い雑誌では，全てオンライン投稿システムが整備されていませんでした。更に低いインパクトファクターの雑誌では，全てオンライン化されていませんでした。考えて見れば，当然と思われるこの現象に時代の流れを感じました。

（編集委員　白澤　浩）